

本論文は

世界経済評論 2019年11/12月号

(2019年11月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

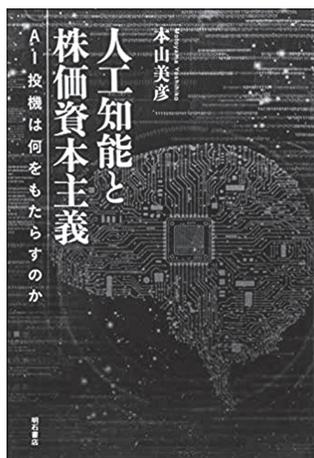
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

人工知能と株価資本主義

: AI 投機は何をもたらすのか

東洋大学経済学部教授 川野 祐司



[著者] 本山美彦 (もとやま よしひこ)
京都大学名誉教授
[発行] 明石書店, 2018年12月刊
[判型] 46判・タテ組, 352ページ
[定価] 本体2600円+税

新しい技術は議論を呼ぶ。自動車が誕生したばかりの19世紀のロンドンでは、自動車は赤旗を持った人の後ろをのろのろと走っていた。現在の視点で当時の自動車に関する議論を聞けば滑稽に思うだろう。同様に、AI（人工知能）やプラットフォームに関する現在の議論も100年後の人からすれば滑稽に映ることだろう。新しい言葉をもてはやして夢物語を拡散するメディアも、感情的に全てに反発する識者も知性に欠けるという点では変わらない。

新しい技術は道具に過ぎず、否応なく社会に浸透する。そうであれば、我々がまずすべきことは道具をよく知ることであり、次に道具の活

用方法を考えることである。

本書は、AIやRPAなど近年話題となっている技術に加えて、資金調達や情報管理などIT企業を取り巻く情勢も幅広く採録しており、翻訳調の平易な表現を用いて新しい技術を妄信する風潮に警鐘を鳴らそうとしている。また、ツイッターを活用して人々を煽るトランプ大統領など新しい技術をすでに活用している人々も紹介されている。ただし、著者は現在の活用のされ方が正しいとは考えていない。新しい技術は社会の改善のために使われるべきであり、個人や企業の利益の最大化のために使われるべきではない。最終章では、著者はロボットの介護現場への導入に期待をかけている。

人工知能という言葉と株価資本主義という言葉にはどのようなつながりがあるのか。GAFに代表される企業はAIなどの言葉で人々を煽って自社の株価を吊り上げ、そうして得た莫大な富で様々な企業を買収する。IT業界を超えてあらゆる分野に進出して「帝国」を築き、独占的地位を占めるようになり、かえってイノベーションを妨げる。人々はその動きに気付いていない、または気付きながらも追従している。

本書はメディアの風潮に警鐘を鳴らしているが、大手メディアの資料を多く引用しており、違和感が残る。また、専門用語の解説は最低限であり読者が自分で調べる必要がある。一部に誤用もある。さらに、新しい技術が社会に何をもたらしたのか、我々は道具としての技術をどのように活用すべきか、という点についてはほとんど触れられていない。ややバランスを欠いた姿勢だと受け取られかねない。

しかし、本書の最大の目的は、読者の「気づき」を喚起することであり、その点で本書は成功したといえるだろう。技術と社会の在り方を考えるきっかけを与える本だといえる。

(かわの ゆうじ)